

■ フジノウェーブ記念 (SIII) アラカルト (過去全 13 回の分析)

※第 1 回 (平成 22 年) から第 4 回 (平成 25 年) までは「東京スプリング盃」の名称で実施
※記録は令和 5 年 2 月 23 日時点

■ 上位人気馬の好走率は 5 割前後

単勝 1 番人気馬は 5 勝、2 着 1 回、3 着 1 回で、3 着内率が 53.8%、単勝 2 番人気馬は 0 勝、2 着 3 回、3 着 3 回で、3 着内率が 46.2%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 2 回、3 着 1 回で、3 着内率が 53.8%となっている。現在のところ、単勝 1~3 番人気馬の 3 着内率にはそれほど大きな差がない。

■ 3 番人気以内の馬が 1~2 着を占めた例は 4 回

過去 13 回のうち 9 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 4 回あるが、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着はまだない。

■ 7 歳以上の馬が優勝馬の大半を占めている

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 2 勝、5 歳が 1 勝、6 歳が 1 勝、7 歳が 4 勝、8 歳が 2 勝、9 歳が 1 勝、10 歳が 1 勝、11 歳が 1 勝となっている。幅広い年齢層から万遍なく優勝馬が出ているうえ、どちらかと言えば 7 歳以上の高齢馬が優勢だ。

■ フジノウェーブは「東京スプリング盃」を第 1 回から 4 連覇

フジノウェーブ記念において複数回の優勝経験があるのは、「東京スプリング盃」の名称で施行された第 1 回 (平成 22 年)、第 2 回 (平成 23 年)、第 3 回 (平成 24 年)、第 4 回 (平成 25 年) を制したフジノウェーブ、第 10 回 (平成 31 年) と第 12 回 (令和 3 年) を制したキャプテンキングの 2 頭となっている。

■ 牝馬、外国産馬とも未勝利

牝馬の優勝例はまだなく、第7回（平成28年）のブルーチップーによる5着が過去最高着順となっている。また、外国産馬は第6回（平成27年）でサトノデートナが、第12回（令和3年）でベストマッチョが2着となっているものの、こちらもまだ優勝例はない。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「2」

騎手別の勝利数を見ると、御神本訓史騎手が3勝で単独トップ。坂井英光騎手が2勝で単独2位となっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、高橋三郎調教師が4勝で単独トップ。的場直之調教師が2勝で単独2位となっている。

■ 7枠に入った馬の優勝例が多い

枠番別勝利数を見ると、7枠（4勝）が単独トップ。2枠と3枠（各2勝）が2位タイとなっている。ちなみに、未勝利の枠番はない。また、馬番別勝利数を見ると、13番（3勝）が単独トップ。3番（2勝）が単独2位となっている。なお、未勝利の馬番は2番、4番、7番、9番、12番、16番だ。